

## 平成 30 年度 第 2 回学校評議委員会 報告

1 日 時 平成 31 年 2 月 25 日 (月) 13:30~14:30

2 会 場 大船渡東高等学校 応接室

3 意見を求めた事項

- (1) 学校経営について
- (2) 学習指導について
- (3) 進路指導について
- (4) 生徒指導について
- (5) 学校評価について

4 学校評議委員からの意見・質問等 (要点)

- 朝読書はとても良い。落ち着いた学校生活につながっているのではないかと。
- スマートフォン等の情報モラルの指導について、弁護士に講師を依頼して、事件の例を挙げて講演して貰ってはどうか。
- 家庭学習の時間が少ないのは、高校に入ることによって目標が達成され、次の進路へ準備するという意識が少ないのではないかと。高校に入れば終わりではなく、更に社会に送り出すところまで考える必要がある。
- 数学と英語の到達度が低い。普通科の先生だけの授業では足りず、過去には、放課後に学科の先生が基礎学力の定着に努めたことがあった。今後は小・中・高の連携も必要不可欠と感じる。
- 工業高校の卒業生が、大船渡市内の中小企業の 8 割で経営者となっている。日本の匠に選ばれている人もいる。
- アウトプットについて、ビジネスプランコンテスト・課題研究発表会等を通して、問題解決能力を培う事でアウトプットが出来るようになる。市主催の出前講座等外部機関も広く利用して欲しい。

質問①：自己肯定感が伸びた理由と学校生活が落ち着いた理由をどのようにとらえているか

回答：自己肯定感については、年々数字を伸ばしてきている。学科の先生が専門の体験をとおして手厚く指導を行っている成果をとらえている。学年+学科+横断的学習により人の交わりが有る事で、沢山の先生に認めて貰っている事が自信に繋がっているのではないかと。

落ち着いた学校生活については、全校集会で、生徒達に生徒指導に時間を取られる事が生徒達への関わる時間が無くなるという事を話し、自覚を促した。また、今年度は、10周年記念事業を成功させるという目標があった。人数が少ない分、部活動も熱心に活動するようになった事も有るととらえている。

質問②：SNS・いじめ等問題行動について、現在は解決済みなのか？

回答：解決済みと捉えている。SNSによる写真の投稿、言葉によるいじめについては、加害者から被害者への謝罪は済んでいる。ただし、いじめとして認知した1件は3ヶ月後に確認が必要なので未だ、未解決扱い。

質問③：国公立大学へのサポート体制はどのように行ったか。

回答：もともと基礎学力の高い生徒ではあった。家庭でも自主的に勉強ができる生徒。推薦科目に併せて普通科職員が個別に指導してきた。また、家業において研究・改良・工夫をしていた生徒である。学科でのプロジェクト発表ともつなげて実績を積み重ねることができた生徒であった。

